

# 小学校の総合学習の時間に授業支援。 地域ぐるみで子供の成長をサポート。

そうごしえん  
相互支援クラブ 島根県



総合学習の一環として  
授業支援は始まった。

小学校の教室では、何組もの生徒が将棋盤をはさんで向き合っていました。賑やかに将棋を指している、男子生徒たち。その傍らで、高齢者の方が女子生徒に駒の動き方をアドバイスしていました。

ここは、安来市の島田小学校。学校からの授業支援要請を受け、「相互支援クラブ」のメンバーが指導に訪れる日です。将棋は初めてという女子生徒も楽しんでいました。

この辺りには、高齢者を

じめ住民が遊び場をつくるなど、地域ぐるみで子供たちを育てようという気風がありま

やたごなどの昔遊び、島田タケノ「掘り、陶芸教室などで、冒頭で紹介した将棋もその一つ。支援の実施回数は年間40回で、支援者数は延べ400〜500人に及びます。

ます。

一人でも多くの子供が郷土に愛着を持つように。

習が開始されることになったのを機に、高齢者の経験や知識を生かしたカリキュラムが検討されたのです。

「授業支援をより実りのあるものにするには、活動の質を高めることが不可欠です。

小学校から授業支援の要請を受けた島田交流センターは、老人会に相談。平成8年9月、小学校と幼稚園を支援することを目的に、地区老人会の島田福寿会内に「相互支援クラブ」が結成されました。

そのため、授業支援後には反省会を開き、その結果を学校へ報告しています。そうすれば問題点や改善点などを共有でき、今後の活動に生かせますからね。会員自身も、資質向上を図るために交流センターが主催する支援員のための『スキルアップ講座』に参加

「授業支援は、子供たちが知識や経験を得るだけではありません。会員もまた、社会貢献を通じて生きがいを得ているんです」と、内田さん。授業支援は、子供たちと高齢者の双方に大きなメリットを生んでいます。

授業支援は年間40回。  
経験は生徒の財産に。

今後の活動については、若い会員の獲得を図るとともに、授業支援の質をより高め、郷土に愛着を持つ子供が一人でも増えるよう取り組んでいます。

「相互支援クラブ」では現在、島田小学校から毎年提出される1年間の支援依頼メニューに基づき、適性をみながら必要な人材や人数を決めて派遣しています。

授業支援の内容は、安来節教室やナシの授粉体験、竹馬

するようになっています」と語るのは、代表を務める内田さん。さらに、毎年、卒業シーズンに行う小学校の教員との親睦会では、1年間の反省を踏まえて翌年の取組についての意見交換を行い、活動がよりスムーズに行えるようにしてい

